

第23回 臨時休業中の私とこれからの私 その2

～ 3年生 KU の課題から ～

前回に続き、「臨時休業中の私とこれからの私」と題して行ったKU（光陵ユニバース/総合的な学習の時間）の学習活動として、提出された生徒たちの記述をいくつか紹介したいと思います。生徒たちは、困難な状況に直面しながらも、しっかりと自分自身と向き合い、今の自分の思いを表現してくれました。

○ K. O.

これほど長い間、日々の生活においての選択を完全に任されたことは今までに無かっただろう。学校や外出の予定があれば、起床時間や食事をとる時間、何をするのかは自ずと決まっている。しかし、今回は家の中でいつ何をするのかを私達は全て自分自身で決めなければならなかった。いきなりまっさらな白紙を渡され、何を描いても良いし色を塗っても塗らなくてもいい。まるでそう言われているようだった。

私は幼い頃から自分で作り出すということがあまり好きではなく、周りの様子を常に見ながら、ルールや法則に従ってある程度決まった道の上を歩くことが多かった。今思えばそれは、自分で責任をもつことが怖かったのだ。

そんな私は、間違いなくこの休業期間で大きく変わった。考え方やものの捉え方など全てが以前より積極的になった。いままでの自信がなく臆病な自分では考えられないほど、責任を持って自分の意思で物事を決めるようになった。そんなのは当たり前のことだと思う人もいるかもしれないが、私にとってそれは大きな成長だった。明確に何がそうさせたのかはわからない。しかし、自分の価値を下げることも高めることも出来る自由な時間がたくさんあったからこそ変わったのだと思う。普段たくさんの刺激を与えてくれている友人や部活の仲間と十分にコミュニケーションをとることが出来ない中、自分とゆっくり向き合い自身を高めることが出来た。また、そうして現在を見つめ直すことで、これまでよりさらに自分の未来を考えるようになった。

私は将来、多くの女性達の生活をサポートしたい。女性ならではの悩みや不安に寄り添い、日々の生活や妊娠出産、育児など、身体だけでなくその人自身をよく知っているような存在になりたい。まだ漠然とした夢ではあるが、初めて自分からやりたいと思ったことだからこそ、今自分出来ることを精一杯行い、いつか何かの形で実現させられるようにしたいと思う。

○ Y. A.

学年末テスト3日目、臨時休校となることが先生から告げられた。私はその時動揺した。しかし、受験生としての動揺ではなく、高校二年生としての動揺であった。強制的に高校二年生の自分が終わってしまったのである。その時私は、部活の今後の活動や4月の初旬に控えた大会のことで頭がいっぱいだった。

3月に入り、課題をこなしつつ感染の危険がないように過ごした。時には、課題の量にうんざりして勉強しない日も多々あり、1日が長いと認識したのは久しぶりだった。その後、春休みも部活が出来ないことが決定された。それは、大会が無くなることを示唆していた。部活に精を出していた私にとって、残り少ない大会が消えることは、とても辛かった。

春休みから日本ではコロナ感染者が急増し、緊急事態宣言が発令され、4月からの学校再開は困難になってしまった。私はまたしても動揺した。その動揺は2月の時と同様のものではなく、受験生としての動揺だった。初めて、今後の勉強について不安になった。その日を境に机に向かうようになり、時間はすぐに経ち、1日が長いとはもう思わなくなっていた。そして、焦りと不安が頭の中を占めるようになっていた。

ようやく、6月から学校が再開されたが、現在の私も頭の中は焦りと不安でいっぱい。解消するためにできる唯一のことは、従来通りの受験日に備え精一杯取り組むことだと思う。受験については色々囁かれているが、気にせずに取り組めば不安が募るペースも遅くなる。全力を尽くして、コロナと受験に勝ちたい。

○ K. K.

私はこの自粛期間で様々な力が身についたと思います。この期間で自分が出来るようになったことを紹介したいと思います。私はもともとニュースなどを全く見ない人で、社会に対して全く関心が無かったのですが、この期間でテレビから流れるニュースや自分のスマートフォンから得られるニュースをよく見るようになりました。また、見るだけでなく、この情報は正しいのか、この情報で社会がどう動くのか、この情報に対して自分はどう思うのかなどの「考える」という力がとても成長したと思います。そしてこの考える力はKUでも鍛えてきた力であり、この力は社会に出た後でも社会を見る上でかなり役に立ちそうだなと感じました。

また、この期間は何もかも自分で積極的に物事にアプローチしなければならない期間でした。勉強を教えてください先生もいなければ、様々なことを教えてください部活の顧問の先生、いろいろなことを話してくれる友達もいなく、また、自分の生活を正してくれる学校という存在もありませんでした。そのため、生活リズムを保つには自分から積極的に生活リズムを整えて、勉強するには自分から積極的に勉強しなければいけません。このような生活を送るうちに自分から自分からという視点を自分の中に形成することが出来ました。

私は自粛期間に入る前に担任の先生から「この期間の出来事を日記などによくメモするように」という助言を頂きました。そして自粛期間に入り、私はこの期間の前半あまり勉強することが出来ず、4月中旬、自分の無力感にかなり落ち込み、辛かった時期がありました。そんなときに担任の先生の助言を思い出し、その時の心境、状況などを事細かにメモしました。そんな時を経て、私は自分からという視点を手に入れることができました。これから社会に出て辛いことがあっても、このメモをみて、自分はあの時どう乗り越えたんだということを思い出して、この出来事をバネに進んでいきたいと思います。